

特集2 「福岡県における県教委と連携した 学校動物飼育支援の取り組み」

處 愛美

1 はじめに

公益社団法人日本獣医師会に所属する全国47都道府県獣医師会と政令指定都市にある8獣医師会の合計55の獣医師会は、それぞれの実情に応じた学校動物の飼育支援事業を行っているが、獣医師会の事業としての取り組みはあっても、都道府県や市の事業として予算化されているところは少ない。福岡県では昨年度（平成26年度）から新しい支援事業が始まったので報告したい。

公益社団法人福岡県獣医師会は会員数746名（平成27年10月現在）うち小動物部会会員は346名である。福岡県には政令指定都市が福岡市と北九州市の2都市ありそれぞれの教育委員会があるので、福岡市は県獣福岡中央支部（一般社団法人福岡市獣医師会）、北九州市は公益社団法人北九州市獣医師会が対応している。

2 義務教育課と連携した事業等の経過

学校動物飼育支援に関する福岡県獣医師会と福岡県教育庁義務教育課の連携は、平成10年度末に獣医師会長と義務教育課長の間で交わされた「覚書」に始まる。

(1) 学校動物愛護体験活動

○平成11,12年度、エンジョイスクール推進事業の一環として実施。

○各年度、県内で12のモデル校を指定し、1校あたり年3回程度の体験活動を実施。

○主な内容

- ・動物に関係する生活科等の授業やふれあい教室の中で、児童が地域の担当獣医師から直接指導を受ける。
- ・飼育動物の病気やケガの処置、世話等について教職員や児童が担当獣医師に相談する。

(2) 学校動物等調査研究活動

○平成13～15年度、やるキッズ支援事業の一環として実施。

○各年度、県内で12～13の小学校を実施校として指定。

○主な内容

- ・獣医師の専門的な指導・助言を受けながら、児童が主体的に動物の生態や生存環境等について調査研究したり学校における飼育動物の世話や病気の対処等を行ったりする。

(3) 「学校における望ましい動物飼育のあり方」に関する研修会。

○平成16年度、県獣医師会主催、県教育委員会共催として開催。

○県内の教員、市町村教育委員会関係者、獣医師等が一堂に集まる研修会として実施（約250名参加）。

○主な研修内容

・講話1「学校教育と体験学習」

講師 文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官 日置 光久

・講話2「命の実感を与え、豊かな感性を培う飼育に」

講師 お茶の水女子大学子供発育教育センター客員研究員／学校飼育動物研究会代表発起人 中川 美穂子

（講師の肩書きは当時）

(4) 「学校における望ましい動物飼育」のに関する研修

○平成17～25年度、県内の6教育事務所や市町村教育委員会、各地区生活科研究協議会等が主催する研修として、獣医師会に講師派遣依頼があり講師を派遣。

○対象者は、校内で動物飼育に関わる教職員（校長、教頭、教務主任、保健主事等）や学習指導で小動物と関わる生活科学習担当教員等。

○主な研修内容

・学校教育における動物飼育の意義及びねらい

・学校教育における小動物飼育を通した「命の教育」及び「豊かな心を育む教育のあり方」の具体化。

・学校における小動物の適切な飼育方法と傷疾病等への対応の在り方 等

これらの連携事業を実施するにあたり、毎年12月初旬には学校飼育動物委員会の委員長と副委員長が義務教育課を訪問し、獣医師会からの研修の報告と次年度に向けた打ち合わせを行ってきた。

3 連携事業の成果

○子供たちに、動物に対する愛情を育み、命の大切さを考える機会を作ることができた。

○義務教育課と連携した管理職や教員に対する研

修会の実施により、動物飼育が心の教育へつながる有効性についてお互いに認識を深めることができた。

○獣医師会の活動内容を周知することにより、学校との協力関係の在り方を探ることができた。

4 見えてきた課題

○動物飼育校数の減少や小動物飼育校数の割合の低下により、実際に動物に触れる機会が減り、「命の大切さ」を実感できない子どもが増えている。

○地域により連携による飼育相談や学校訪問等の実施に差が生じている。

○管理職や教員の動物飼育に関する知識（ふれあい方、生態、衛生面等）が不十分なため、教材として効果的に活用できない。

5 学校動物飼育のための支援事業

(1) 学校動物飼育支援推進に向けた平成25年度の取り組み(準備期間)

○学校動物飼育支援協議会の設置及び開催

○担当指導主事によるふれあい教室・体験の視察(小学校・動物園等)

○動物飼育状況調査の実施(義務教育課→小学校)

(2) 学校動物飼育支援協議会

【目的】

「学校における動物飼育についての教職員及び児童に対する総合的な支援の在り方を検討し、学校における適正な動物飼育に資する」

【委員の構成】

- ・市町村教育委員会教育長代表
- ・福岡県獣医師会に属する獣医師代表
- ・福岡県獣医師会事務局職員
- ・市町村立小学校長代表
- ・関係行政職員（保健衛生課，義務教育課）
事務局：義務教育課

(3) 動物飼育状況調査

(4) 検討された支援内容

- ・動物飼育に関する教員研修

【研修目的】

教員に対して飼育動物の授業への活用方法，心の教育推進に対する有効性について理解を深める。

【研修内容】

飼育動物の授業への活用方法子供の動物へのかかわらせ方、動物の生態 等

【研修方法】

小学校での実施小動物とのふれあいを通しての説明、授業を通しての協議、獣医師を講師とした指導・助言

- ・動物飼育に関する管理職研修

【研修目的】

管理職に対して動物飼育の教育的意義や衛生管理の在り方，効率的な飼育方法，疾病等の対応について周知する。

【研修内容】

- 動物飼育の教育的意義
- 衛生管理の在り方
- 飼育環境改善のための具体的方策
- 疾病等への対応 等

【研修方法】

- 教育センターでの実施
- 獣医師を講師とした講話
- 先進校の実践発表
- ・動物飼育にかかる学校への支援

【目的】

学校が抱える飼育方法や衛生管理に対する不安の解消，地域・保護者に対する動物飼育の理解・啓発を図る。

【支援内容】

- 適切な飼育場所の整備方法
- 動物の病気予防や児童のアレルギー対策
- 地域や保護者に対する動物飼育の理解促進等

【支援方法】

- 獣医師による電話相談
- 獣医師による学校訪問指導の実施

(5) 学校動物飼育のための支援事業実施(平成26年度)

①目的

学校における動物飼育の方法や衛生管理に対する不安や課題の解消を図ることで動物飼育環境を整えるとともに，動物の授業への活用方法や心の教育推進に対する有効性に係る研修を通して，飼育動物を活用した教科指導の充実を図り，児童の豊かな心の育成に資する。学校の動物飼育環境を整え，飼育動物を活用した教科指導の充実を図ることをとおして，児童の豊かな心の育成に資する。

②事業内容

(7) 動物飼育相談体制の整備

- ・実施期間
平成26年度～平成28年度
- ・対象
県内（政令市を除く）全公立小学校
- ・内容
電話相談、訪問指導

(1) 教員研修

- ・実施期間
平成26年度

- ・対象
県内（政令市を除く）全公立小学校教員各1名
- ・研修内容例
飼育動物を活用した授業づくり
児童の動物へのかかわらせ方
動物の生態
- ・実施方法
動物とのふれあい授業等を通じた研修の中で
獣医師から指導・助言を受ける。

(ウ)管理職研修

- ・実施期間
平成26年度～28年度
- ・対象
県内（政令市を除く）全公立小学校の新任校長及び新任教頭
- ・研修内容例
動物飼育の教育的意義
衛生管理の在り方
飼育改善のための具体的方策
疾病等への対応

(6) 獣医師会の対応

- ①小学校で実施される教員研修会に対応するための支援チームの編成
1チーム 2～10名 22チーム
- ②支援チームの研修
 - ・ふれあい授業, 研修会での内容を統一するため, 実践的な研修会を開催
 - ・プレゼンテーション例を配布

(7) 平成26年度実施状況

- ①動物飼育相談体制の整備
電話相談 9件
訪問指導 38件 延84名の獣医師が参加
- ②教員研修
県内22カ所で開催 延94名の獣医師が参加
- ③管理職研修
新任校長研修, 新任教頭研修での獣医師による講話

(8) 獣医師会の取り組みの問題点

これまでの学校飼育動物専門委員会を中心とした学校動物支援活動は、県獣医師会総会や会報を通じて会員に周知してきたつもりであったが、思うようには伝わっておらず、事業の目的や内容がつかめない会員が多かった。

また、これまでの活動は、教育事務所等が実施している教員研修に獣医師は講師として招かれる。あるいは、希望校のゲストティーチャーとして授業を行う、という単発での協力であったが、今回は、県教育庁の事業として予算化され、義務教育課主導で事業は計画された。しかし、その計画に

獣医師会が全面的に協力することになることへの理解は十分には進まなかった。出務回数、児童の安全対策に対する責任の所在を心配する声も多数あった。

事業実施の時期は年度当初に大まかにわかっているが、具体的な日時は教育事務所と義務教育課で調整され、獣医師は決定事項として知らされることに対して反発が強かった。この改善策としては、支援協議会の委員でもある委員長の私と義務教育課の担当指導主事が密に連絡を取り合い、獣医師会会員との情報の共有化を図る必要があることを痛感している。

(9) 平成27年度事業と課題

平成26年度単年度実施の予定であった教員研修は教育方からの評価が高く、平成27年度も継続して実施されている。しかし、獣医師側からは、「単年度実施と聞いていたのに話が違う」といった声もある。これには「自分たちの都合も聞かないで一方向的に決められた」という思いもあるようである。事業主体が県教委である以上、仕方のない部分もあるが、動物病院長として一国一城の主人である獣医師に対して県教育庁と獣医師会の公益事業に協力依頼することの難しさでもあると思う。

6 事業の継続に向けて

県獣医師会と県教委義務教育課の連携事業は全国でも初めての事例であろう。平成26年度の前年度は約400万円であった。政令市における連携事業は、学校設置者である市教委と獣医師会との契約であるので、学校の動物の診療や施設に対する予算措置が可能であるが、県教育庁の場合は各市町村教育委員会が間にあるためそれが難しい。したがって、教員研修と相談事業という事業内容になっている。28年度までの3年間の事業をどう評価し、次の事業の継続につなげるかが問われている。今後、学校設置者である市町村教委との連携事業をどのような形で広げていくかも課題となってくるであろう。獣医師会の会員からは事業が始まるまではいろいろな不平や不満も出たが、実際に参加した獣医師からは「結構楽しかった」という感想も多かった。学校の対応も教育事務所の指導主事が中心になり担当教諭からは丁寧な指導案が出されて、しっかり打ち合わせをした上で授業に臨むことができたので良かった。今回の福岡県での組織的な取り組みが、全国での学校動物飼育支援のモデルケースの一つになれば幸いである。

(公益社団法人福岡県獣医師会理事／学校飼育動物専門委員会委員長／公益社団法人日本獣医師会学校動物飼育支援対策検討委員会副委員長／一般社団法人日本小動物獣医師会理事 学校飼育動物対策委員会委員長)

飼育動物を活用した授業づくり

さわったり、だっこしたりしたいけどどうやったらいいのかな？

16-01



飼育動物を活用した授業づくり



16-05

飼育動物を活用した授業づくり

獣医師の先生、教えてください！！

16-02

ウサギとのふれあいのしかたはね…



飼育動物を活用した授業づくり

抱っこできたよ。むねとおしりをもつと、あばれないね。

ふわふわして温かい。

16-06



飼育動物を活用した授業づくり

抱っこしたいな。でも、ちょっと怖いな。

こうやるんだよ！雄と雌はね…

16-03



飼育動物を活用した授業づくり

ウサギの心臓の音聞こえる？

トクトクトクって聞こえる。はやい。

16-07



飼育動物を活用した授業づくり

こわいときはね、タオルを使うといいよ。

16-04



飼育動物を活用した授業づくり

どんなことに気がきましたか？

16-08



飼育動物を活用した授業づくり



16-09

飼育動物を活用した授業づくり

もう一回だっことして、
気付きを確かめる



ほくたちといっ
しょ。生きてるん
だね。 16-11

飼育動物を活用した授業づくり



ぬいぐるみみたいだ
けど、みんなと同じ
命があって、生きて
いるんだよ。

16-10